

曾於文藝

題字
末吉文化協会会員
瀬戸口 淳民氏

あんなにも探し求めし補聴器の
出で來し唇を笑ひてしまふ

長倉 佳津子

その昔馴染み昭和のメロディーに
窓辺の級友の面影しのぶ

杉村 リカ

手入れなき金木犀は大きくて
私はここよと芳香放つ

児玉 次雄

俳句 末吉俳句会

年輪に冬日の温みあるベンチ

永里

瑞代

ゴーカートコースに沿へる野菊白

西村

セツ

落葉の香放ちてをりし吹き溜り

堀之内

美喜

大隅俳句会

芋に粟米も混じりし日を言えれば
娘は素晴らしき食育という

竹田 威子

本家ん嫁

折目節日

西留 辰子

内蔵のアクリルレンズに抜けゆく

視界に慣れゆくまでの幾日

広川 ミドリ

今ん亭主が

山中 ミツどん

小春日や里山に降る鳶の笛

福村

よう子

元朝や手摺の零金と銀

岩重

みどり

山氣澄む山には山の石蕗の花

鍋山

美智子

曾於やごろう短歌会

幾重にも覆い被さる難題を
朝の光を受けてきらきら

安藤 フヂ子

溜息ちつ

胡摩ヶ野 ベぶまつ

短歌 末吉短歌会

恒例の弥五郎どんのイナバウアー
すこし腰痛ぶり返しそう

宝藏 弘一

車中より岬の馬見て母はふと
むかし飼育の馬の名を呼ぶ

小原 忠教

さかししば
元気婆も 旅行で転倒

浜田 一好

財部短歌会

その昔馴染み昭和のメロディーに
窓辺の級友の面影しのぶ

杉村 リカ

薩摩狂句 にがごい会末吉支部

未然形で取り残されし事柄が
浮遊する夜半の闇の深さよ

森岡 ちどり

児玉 次雄

年輪に冬日の温みあるベンチ

永里

瑞代

ゴーカートコースに沿へる野菊白

西村

セツ

落葉の香放ちてをりし吹き溜り

堀之内

美喜

大隅短歌会

芋に粟米も混じりし日を言えれば
娘は素晴らしき食育という

竹田 威子

本家ん嫁

折目節日

西留 辰子

内蔵のアクリルレンズに抜けゆく

視界に慣れゆくまでの幾日

広川 ミドリ

今ん亭主が

山中 ミツどん

小春日や里山に降る鳶の笛

福村

よう子

元朝や手摺の零金と銀

岩重

みどり

山氣澄む山には山の石蕗の花

鍋山

美智子

曾於やごろう短歌会

幾重にも覆い被さる難題を
朝の光を受けてきらきら

安藤 フヂ子

溜息ちつ

胡摩ヶ野 ベぶまつ

短歌 末吉短歌会

恒例の弥五郎どんのイナバウアー
すこし腰痛ぶり返しそう

宝藏 弘一

車中より岬の馬見て母はふと
むかし飼育の馬の名を呼ぶ

小原 忠教

さかししば
元気婆も 旅行で転倒

浜田 一好

曾於文藝